

平成 22 年度
横須賀美術館 評価報告書

平成 23 年（2011 年）12 月
横須賀美術館評価委員会

目次

1	検討の経緯	1
2	平成 22 年度 横須賀美術館の評価について	4
3	平成 22 年度の評価システム	8

本編

事務局による一次評価

①	広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。	11
②	市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。	15
③	調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。	18
④	学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。	24
⑤	所蔵作品を充実させ、適切に管理する。	27
⑥	利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。	29
⑦	すべての人にとって利用しやすい環境を整える。	33
⑧	事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する。	35

評価委員会による二次評価

①	広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。	37
②	市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。	39
③	調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。	41
④	学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。	43
⑤	所蔵作品を充実させ、適切に管理する。	44
⑥	利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。	45
⑦	すべての人にとって利用しやすい環境を整える。	46
⑧	事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する。	47

はじめに

横須賀美術館の美術館評価委員会は、開館前の平成 19 年 3 月に発足しました。それから 3 年間の検討を経て、平成 22 年に横須賀独自の評価システムを確立し、前年度の試行評価を行いました。しかしながら、まだ試行錯誤を繰り返しながら進めており、見直しも必要な状況です。そして、今年平成 23 年度に、昨年度の評価をしました。昨年度よりシステムはよりわかりやすくなってきたものと認識しています。

さて、平成 22 年度の横須賀美術館の評価は、昨年度の修正を経て、評価項目を整理し、3つの使命に基づく7つの目標と、経営的視点による目標を加えた計8つの目標について評価をしました。評価の結果ですが、全体を通じて各所に課題はあるものの昨年度より高い評価につながっているものと感じます。以下、具体的な内容について若干ふれておくこととします。

使命Ⅰ「美術を通じた交流を促進する」では、美術館の集客・広報・交流にかかる評価になります。横須賀美術館は年間 10 万人の観覧者数を目標としており、平成 22 年度は、この目標を達成しています。3月の東日本大震災の影響もありましたが、それまでの活動の結果が目標達成に結びついたものです。パブリシティの働きかけは評価に値するものといえます。また、ボランティア活動も活発に行われていることがうかがわれます。

使命Ⅱ「美術に対する理解と親しみを深める」では、展覧会・教育普及活動・美術品の収集保存に関する評価になります。企画展は満足度の高さが高評価を得ています。教育普及活動は、ワークショップ等の開催実績や、学校と連携した鑑賞会の開催等学校への働きかけが高い評価につながりました。一方、美術品の収集については、作品購入が行えていない面で評価は低く、課題と言えます。

使命Ⅲ「訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する」では、アメニティ満足度・バリアフリーに関する評価になります。障害者向けの事業の実績は特筆すべき評価となりました。

評価システムは、普段の美術館活動を点検評価し、課題の改善につなげるためのものです。よい評価を得た活動についてさらなる継続が、また課題については、解決への対応が望まれます。平成 23 年度は引き続き前年度の課題に取り組み、より市民に親しまれる美術館として活動を続けられることを期待しています。

平成 23 年 12 月

横須賀美術館評価委員会
委員長 小林照夫

1 検討の経緯

(1) 平成18年度 第1回 会議

日時：平成19年3月6日 午後3時～5時

会場：美術館会議室

- 次第：1 開会
2 生涯学習部長あいさつ
3 委員の自己紹介
4 委員長指名
5 議事
 (1) 事務局より趣旨・配布資料説明
 (2) 評価項目案の検討
 (3) その他
6 事務連絡

(2) 平成19年度 第1回 会議

日時：平成19年7月6日 午後2時～4時

場所：美術館会議室

- 次第：1 横須賀美術館館長及び事務局（教育委員会）職員の紹介
2 議事
 (1) 横須賀美術館の基本理念・活動方針について
 (2) 平成19年度の目標について
 (3) 評価項目・評価指標について
 (4) その他
 ①美術館開館後の状況について（報告）
 ②来館者アンケートの集計結果（速報）について（報告）
3 その他事項
 (1) 次回開催予定について
 (2) 中間での資料提供及びご意見等の聴取について

(3) 平成19年度 第2回 会議

日時：平成20年3月7日 午後2時

場所：美術館会議室

- 次第：1 あいさつ
2 報告
 (1) 第2回委員会以降の経過
 (2) 配布式アンケートの分析結果について
3 議事
 (1) 評価制度の確立・実施に向けたスケジュールについて
4 その他

(4) 平成 20 年度 第 1 回 会議

日時：平成 21 年 2 月 23 日 午後 2 時

場所：美術館ワークショップ室

次第：1 あいさつ

2 報 告

評価委員会委員改選等について

3 議 事

横須賀美術館 評価制度（案）について

・目標・評価項目・評価指標について

4 その他

(5) 平成 21 年度 第 1 回 会議

日時：平成 21 年 6 月 25 日

場所：美術館会議室

次第： 1 あいさつ

2 委員委嘱

3 委員自己紹介

4 委員長選任

5 議事

(1) 横須賀美術館 評価制度について

(2) 平成 21 年度の会議日程について

(3) 会議の公開について

6 その他

(6) 平成 21 年度 第 2 回 会議

日時：平成 21 年 10 月 20 日 午後 3 時～5 時

場所：美術館ワークショップ室

次第：1 あいさつ

2 議 事

平成 21 年度の活動報告及び一次評価（仮）について

3 その他

(7) 平成 21 年度 第 3 回 会議

日時：平成 22 年 3 月 9 日 午後 3 時～5 時

場所：美術館会議室

次第：1 あいさつ

2 議 事

(1) 平成 21 年度の一次評価（試行案）及び二次評価について

① 評価確定までのスケジュール（案）

- ② 一次評価（試行案）について
- ③ 二次評価の実施方法について
- 3 その他

(8) 平成 22 年度 第 1 回 会議

日時：平成 22 年 8 月 11 日 午後 3 時～7 時 30 分

場所：美術館会議室

- 次第：1 あいさつ
- 2 委員自己紹介
 - 3 議 事
 - (1) 平成 21 年度の評価について
 - (2) 平成 22 年度の事業計画について
 - 4 その他

(9) 平成 22 年度 第 2 回 会議

日時：平成 22 年 11 月 26 日 午後 3 時 20 分～4 時 40 分

場所：美術館ワークショップ室

- 次第：1 あいさつ
- 2 議 事
 - 平成 22 年度の評価について
 - 3 その他

(10) 平成 23 年度 第 1 回 会議

日時：平成 23 年 5 月 12 日 午後 3 時～4 時 40 分

場所：美術館会議室

- 次第：1 あいさつ
- 2 議 事
 - (1) 平成 22 年度の評価項目等について
 - (2) 今後の進め方について
 - 3 その他

2 平成 22 年度 横須賀美術館の評価について

(1) 評価の目的

横須賀美術館の評価は、現在行っている活動を振り返り、適正に行われているかを自己点検することで課題や反省を自覚し、改善点の検討につなげるものです。

美術館は 1 年間の活動をまとめ、自らの評価を行い評価委員会に報告します。評価委員会は活動内容を市民目線でチェックし、改善点や活動の提言を行い、美術館の業務改善、よりよい活動につなげていくことを目的としています。

次頁に掲載した表のとおり評価全体の流れは PDCA サイクルによる改善を基本としています。個々の業務を計画 (P:Plan) し、実行 (D:Do) していき、その内容を評価 (C:Check) し、これを改善 (A:Action) につなげていきます。

毎年この活動を繰り返していくことで、よりよい横須賀美術館を目指していくものです。

(2) 評価項目

横須賀美術館は、その設置条例第 1 条に「美術を通じたさまざまな交流の機会を促進し、市民の美術に対する理解と親しみを深め、もって文化の向上を図る」と、設置の目的を明記してあります。そしてこの目的に沿った「使命」を掲げ、「使命」に基づいた「目標」を示し、この目標を評価項目として体系づけました。それぞれの目標には、「達成目標」と「実施目標」を掲げ、これが具体的な評価をしていく項目となります。

なお、「達成目標」は数的指標であり、具体的な数値目標が示されるため、達成の成否は客観的に明らかです。評価者は、その他の資料もあわせみたくうえで、達成の度合いを判断し、総合的な評価を行います。

いっぽう、「実施目標」は質的指標であり、評価者は、運営者の行動報告に基づいて、主観的評価を行います。

評価項目は、「平成 22 年度評価システム」として P8 をご覧ください。

*平成 21 年度の試行評価では、10 項目に大別し、その下に小項目として、各大項目の中で必要に応じて最大 a~f までの 6 項目に区分し、計 39 の評価項目としていました。

しかしながら、評価項目の重要性の度合いにばらつきがあり、かつ重複が見られたため、見直ししたものです。

(3) 評価基準

達成目標と実施目標共通の基準を設けています。

目標に到達したかを S から D の 5 段階とし、以下の基準としました。

S: 優れた成果を挙げている

A: 目標を達成している

B: 目標をほぼ達成している

C: 目標にはほど遠い。より一層の努力を要する

D: 努力が結果に結びついていない。方法そのものについて再検討を要する

二次評価を評価委員が行う際には、上記のほか、F: 判定不能を設けています。

*平成21年度の試行評価では、ABCの3段階評価としましたが、基準があいまいになり、かえって評価自体がわかりにくいものとなっていました。そこで、平成22年度では、とくに目標に到達していない度合いを細分化し、表現しやすくするなど見直しをしました。

(4) 平成21年度試行評価の見直しと対照

平成21年度の試行評価の結果、評価項目、評価基準を大きく見直しをしました。その内容は、前述のとおりですが、前年度との比較を以下のとおりまとめました。

評価システムの再構築について(新旧の対応)

煩雑で重複が多い(3つのミッション(使命)—10の目標—39の評価項目)平成21年度のシステムを整理・再編し、よりシンプルで整合性がある(3つの使命—8つの目標—16の評価項目)システムに改めた。

- ① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。
旧①「美術を通じた交流の促進」のほか、②-a.「企画展集客率」、②-e.「リピート率」、③-f.「周辺諸施設との連携」など、集客に関する要素を集約した。
「年間観覧者数」を達成目標とし、広報的な取り組みを実施目標とした。
- ② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。
旧⑦「市民との協働」に相当。
ボランティア活動が活発に行われているかどうかを端的に示すため、市民ボランティアとの協働事業への参加者数を達成目標とした。
- ③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。
展覧会事業および大人を対象とする教育普及事業、それらの前提となる調査研究に関する要素を集約した。
図書室を整備、充実させることも、目標の趣旨にかなうので、ここに組み入れた。
象徴的な指標として、「企画展の満足度」を達成目標とした。
- ④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。
旧⑥「学校との連携」および⑧「子どもたちへの美術館教育」は、関連性が深いので、総合してひとつの目標とした。
美術館が子どもたちにじゅうぶん利用されているかどうかを端的に示す指標として、中学生以下の年間観覧者数を達成目標とした。
- ⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する。
旧⑨「すぐれた美術品の収集・保管」に相当。
収集活動を行っていることを示す指標として、美術品選定評価委員会の開催を達成目標とした。
- ⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。
ほぼ旧③「やすらぎの場の提供」に相当。
ハード(建物管理、メンテナンス)、ソフト(来館者サービス、ミュージアムショップ、レストラン)両面から、来館者に心地よく過ごしていただくことに関わる要素を集約した。
象徴的な指標として、「館内アメニティ満足度」を達成目標とした。
- ⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える。
旧⑤「福祉活動の展開」に相当。
福祉関連事業が活発に行われているかどうかを端的に示す指標として、福祉関連事業への参加者数を達成目標とする。
- ⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する
旧⑩「経営的な視点をもった効率的な運営・管理」に相当。
費用対効果を端的に示す指標として、美術館の主たる事業である展覧会事業にかかる費用と、観覧者数の比を提示し、達成目標にあてる。

(評価項目 新旧対応表)

平成22年度(新)	平成21年度(旧)
使命	目標
目標	評価項目
I 美術を通じた交流を促進する	①美術を通じた交流の促進
①広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。	a. 年間観覧者数
	b. 年間来館者数
	c. 市民率
	d. パブリシティの状況
	e. アクセス満足度
②市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。	②質の高い展覧会の開催
	a. 企画展集客率
	b. 企画展の満足度
	c. 所蔵品展の満足度
	d. 谷内六郎展の満足度
	e. リピート率
II 美術に対する理解と親しみを深める	③やすらぎの場の提供
③調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。	a. 館内アメニティ満足度
	b. スタッフ対応の満足度
	c. ミュージアムショップの満足度
	d. レストランの満足度
	e. 図書室の満足度
	f. 周辺諸施設との連携
④学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。	④知的好奇心の育成と充実
	a. 企画展・所蔵品展・谷内六郎展の開催
	b. 講演会・アーティストトークなどの開催
	c. 一般向けワークショップなどの開催
	d. 学芸員によるギャラリートークの実施
	e. 学芸員による論文等の充実
⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。	⑤福祉活動の展開
	a. 福祉とアートをテーマとした講演会の開催
	b. 障害児を対象としたワークショップの開催
	c. 障害者施設、高齢者施設などの受け入れ
	d. 託児サービスの実施
III 訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する	⑥学校との連携
⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。	a. 児童生徒造形作品展の開催
	b. 小学校美術館鑑賞会の受け入れ
	c. 中学生のための美術鑑賞教室の開催
	d. 研修生等の受け入れ
⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える。	⑦市民との協働
	a. サポートボランティアの活動状況
	b. プロジェクトボランティアの活動状況
⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する	⑧子どもたちへの美術館教育
	a. 子ども向けワークショップの開催
	b. アーティストと出会う会の開催
	⑨すぐれた美術品の収集・保管
	a. 作品収集の状況
	b. 保存・修復の状況
	c. 所蔵作品の貸出状況
	⑩経営的な視点をもった効率的な運営・管理
	a. 開館日
	b. 開館時間
	c. 財務状況

(目標の性格)

平成22年度(新)

「目標」ごとに、「達成目標」と「実施目標」を設けた。

「達成目標」: 数的指標

- ・「目標」の達成度合いを端的にしめす数値目標。
- ・主に外的要因(来館者の動向など)によって結果が左右される。
- ・達成したかどうかは客観的に判断される。(達成した場合のS/Aの別、達成しなかった場合のB~Dの別は、各委員の裁量の範囲。)

「実施目標」: 質的指標

- ・「目標」を達成するための行動計画。
- ・運営者側の計画的な行動であり、じゅうぶんであるかどうかは、各委員の主観的な判断による。
- ・端的な指標に過ぎない「達成目標」のみでは把握できない部分を補う役割がある。

平成21年度(旧)

(問題点)

数的指標である目標①~③に、質的指標として目標④~⑩を加えた経緯があり、内容が一部重複している。

目標①~③では、評価基準が決まっているため、委員による裁量の範囲がほとんどない。

ミッション(使命)と目標との対応関係があいまい。

(評価基準)

「達成目標」と「実施目標」に共通の評価基準を適用する。

平成22年度(新)		目標	平成21年度(旧)	
すぐれた成果を挙げている。	S		A	指標より高いレベルに達している
目標を達成している。	A	B	指標を満たしている	
目標をほぼ達成している。	B	C	指標を満たしていない	
目標にはほど遠い。より一層の努力を要する。	C			
努力が結果に結びついていない。方法そのものについて再検討を要する。	D			
判定不能	F			

S~Dの5段階評価に、F(判定不能)を加えた。AとBの間に「目標」がある。

- ・目標を達成していれば「A」以上となり、よい評価であることがわかりやすい。
- ・目標より下に段階を設けることにより、目標を達成していない場合、その度合いを表現しやすくなった。
- ・結果が著しく劣っている、あるいは努力の方向が間違っているために、方法そのものの再検討が必要な場合のために、「D」評価を設けた。
- ・専門的な知識が必要であるなどの理由から、評価ができないという場合のために「F」(判定不能)を設けた。

A~Cの3段階評価。BとCの間に「目標」がある。

(問題点)

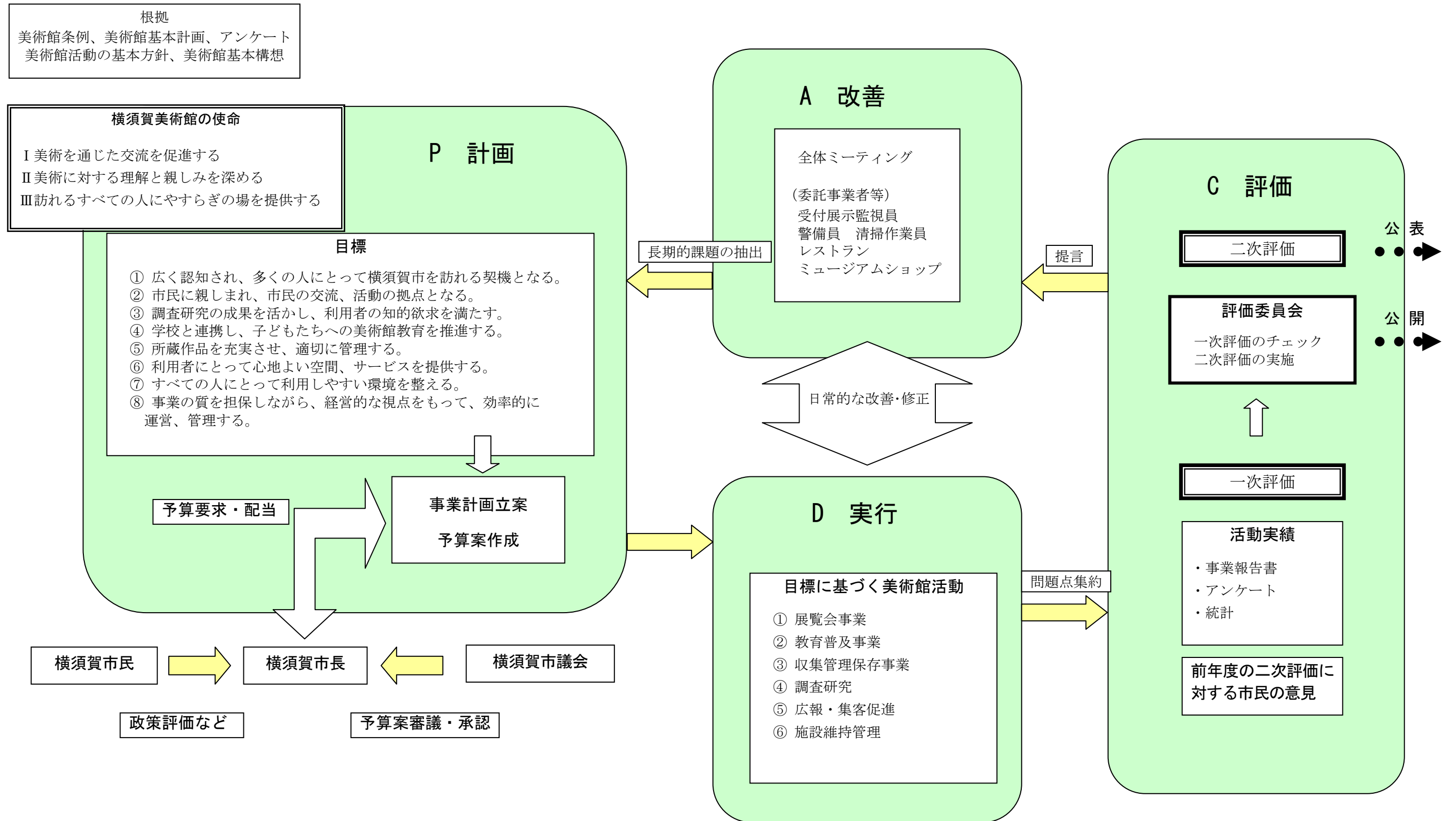
- ・数的指標の場合、指標をほぼ満たしていても、一番下のランクになってしまう。
- ・指標を満たしていても、2番目のランクになってしまい、一見してよい評価とわかりにくい。

3 平成 22 年度の評価システム

使命	目標	指標	参考資料
I 美術を通じた交流を促進する			【集客・交流推進】
① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。			〔広報〕
達成目標	・年間観覧者数10万人	・年間観覧者数(月別推移、年度別推移) ・年間来館者数(月別推移、年度別推移) ・駐車場利用状況(月別推移、年度別推移) ・来館回数(年度別推移) *リピート率 ・居住地域(年度別推移) *市民率 ・交通手段(年度別推移)	
実施目標	・広報、パブリシティ活動を通じて、広い層に美術館の魅力をアピールする。	・各種メディアへの掲載実績 ・広報会議の概要(広報戦略) ・訴求活動の概要(ポスチラ配布、リリース発送の状況)	
② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。			〔市民協働〕
達成目標	・市民ボランティア協働事業への参加者数のべ1000人(事業ごとに加算、登録者・一般参加者を総合して)	・各事業ごとの開催回数、参加者数の一覧 →サボボラ研修 所蔵品展ギャラリートーク(参加者数、参加ボランティア数) 小学校鑑賞会補助(参加ボランティア数のみ) ワークショップ補助(参加ボランティア数のみ) プロジェクトボランティア会議 プロジェクトボランティアイベント(参加者数、参加ボランティア数)	
実施目標	・ふだん美術館に関心を持たない層を含めた市民が、美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。 ・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。	・ボランティア関連事業の概要 ・(ボランティアの感想・反応)	
II 美術に対する理解と親しみを深める			【社会教育】
③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。			〔展覧会・教育普及〕
達成目標	・企画展の満足度(補正值)70%	・各企画展の満足度 ・所蔵品展の満足度(年度別推移) ・谷内六郎展の満足度(年度別推移)	
実施目標	・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6本(児童生徒造形作品展含む)の企画展を開催する。 ・大人の知的好奇心を満たし、美術への理解を深めるための教育普及事業を企画・実施する。 ・所蔵図書資料を充実させる。 ・多くの人々が気軽に利用できるよう、図書室の環境を整える。 ・主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。	・各企画展(児童生徒造形作品展を除く)の概要(ねらい、担当者の感想・反省点) ・所蔵品展の概要(同) ・谷内六郎展の概要(同) ・講演会・アーティストトーク等の実施状況(同) ・大人向けワークショップ等の実施状況(同) ・図書室の概要(図書新規購入額・点数、寄贈図書の点数) ・図書室の利用状況(利用者の月別推移、担当者の感想・反省点) ・学芸員による論文、発表等	
④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。			〔若年層への教育普及〕
達成目標	・中学生以下の年間観覧者数15,000人	・観覧者数の券種別内訳(月別推移、年度別推移) ・子どもを対象とした教育普及事業の参加者数(のべ人数の年度別推移)	

	<p>実施目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。 ・学校と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。 ・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。 ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒造形作品展の概要(担当者の感想・反省点)(学校側の反応) ・小学校美術館鑑賞会の概要(実施内容、学校数、児童数、対応職員・ボランティア数、担当者の感想・反省点)(学校側の反応) ・中学生のための美術鑑賞教室の概要(実施内容、担当者の感想・反省点)(生徒の感想) ・子ども向けワークショップ等の実施状況 ・研修等の受入れ状況
⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。 [収集管理]		
	<p>達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術品選定評価委員会を1回開催する 	<ul style="list-style-type: none"> ・新収蔵作品リスト
	<p>実施目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。 ・適正な保管環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。 ・計画的に所蔵作品の修復を行う。 ・所蔵作品がひろく価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品収集の状況 ・保管環境の状況 ・所蔵作品の修復状況 ・所蔵作品の貸出状況(件数、点数)
Ⅲ訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する [運営・管理]		
⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。 [メンテナンス・来館者サービス]		
	<p>達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館内アメニティ満足度80% ・スタッフ対応の満足度80% 	<ul style="list-style-type: none"> ・アメニティ関連各項目の満足度(年度別推移) →全般・館内印象・館内環境・休憩所・トイレ・清掃 ・スタッフ対応の満足度(年度別推移)
	<p>実施目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築のイメージを損なわないよう、じゅうぶんなメンテナンス、館内清掃を行う。 ・受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。 ・受託事業者と協力して、付帯施設(レストランおよびミュージアムショップ)を来館者ニーズに応じて運営する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メンテナンスの概要(屋外含む美観、安全性の確保) ・受付・展示監視員研修の状況 ・運営事業者連絡会議の概要(議題等) ・繁忙期の対策(ケータリング誘致など)のまとめ ・レストランアンケート結果 ・レストランコラボメニューの概要
⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える。 [バリアフリー]		
	<p>達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉関連事業への参加者数のべ200人 	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業ごとの開催回数、参加人数 →福祉関連講演会 福祉関連ワークショップ 福祉関連パフォーマンス 障害児を対象としたワークショップ 託児サービス
	<p>実施目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親しんでもらう(環境づくり)のための各種事業を行う。 ・必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉関連講演会の概要 ・福祉関連ワークショップの概要 ・福祉関連パフォーマンスの概要 ・障害児を対象としたワークショップの概要 ・託児サービスの概要 ・養護学校等の受け入れ状況 ・鑑賞補助(対話鑑賞)の実施
⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する [経営的視点]		
	<p>達成目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歳入および歳出の内訳(年度別推移)
	<p>実施目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員すべてが費用対効果をつねに意識し、効率的な支出を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経費節減の事例・検討課題報告 →開館日・開館時間

横須賀美術館評価システムの全体像



事務局による一次評価

I 美術を通じた交流を促進する

- ① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
A	B

【達成目標】年間観覧者数 10 万人を達成します。

〔目標設定の理由〕

「横須賀市立美術館 基本計画」（平成 12 年 6 月策定）では、他の公立美術館の実績を参考に、施設の規模、本市の人口などを勘案し、年間観覧者数を 10 万人と予測しました。開館後は、その予測を年間観覧者数の判断基準としています。

観覧者数は、開館後継続して減少し、平成 21 年度には基準となる 10 万人を下回る結果となりました。これを基準以上に引き上げるため、平成 22 年度の年間観覧者数の目標を 10 万人と設定しました。

年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
観覧者数	165,961 人	106,520 人	98,738 人	100,033 人
来館者数	386,175 人	246,337 人	224,729 人	231,826 人

〔一次評価の理由〕

- ・目標を達成することができました。
- ・平成 22 年度は、年度末の震災の影響(4日間臨時休館)により3月中の来館者数が伸びなかったにも係わらず目標を達成したことから、一定の評価ができるものと考えています。

展覧会名		観覧者予測	実績	達成率
企画展	ワンダーシニア 30 展	1,000	2,762	276.20%
	菅野圭介展	15,000	14,053	93.69%
	ブルーノ・ムナリー展	17,000	24,937	146.69%
	ポップ・アート展	9,000	14,016	155.73%
	ラファエル前派からモリスへ	20,000	15,667	78.34%
	児童生徒造形作品展	15,000	16,311	108.74%
	原口典之・若江漢字展	8,000	4,735	59.19%
所蔵品展		18,000	7,552	41.96%
計		103,000	100,033	97.12%

- ・企画展のブルーノ・ムナリー展(6月26日～8月29日)やポップ・アート展(9月11日～10

月17日)などは、想定を上回る多くの方に観覧いただき目標達成に大きく貢献しました。2つの企画展では、普段あまり美術館を訪れないような若者世代に受け入れられたことが集客増に繋がったと考えています。

【実施目標】 広報、パブリシティ活動を通じて、市内外の広い層に美術館の魅力をアピールします。

[目標設定の理由]

横須賀美術館は、企画展・所蔵品展の内容はもちろんのこと、その絶景のロケーションからも一度お越しいただければ、きっとご満足いただけるだけの魅力を持っていると考えています。

絶景美術館にも選出(※)された当館の魅力は、本市の貴重な都市資源であり、これを有効活用することは、本市のシティセールスや交流都市の推進という観点からも重要になります。

そのためには、市内外に積極的に情報を発信して広い層に美術館の魅力をアピールすることで知名度や認知度を向上させていくことが必要と考え、実施目標として設定しました。



(※) OCN artgene が選ぶ「絶景美術館トップ5」の5位に選出されました。(2010.12)

[一次評価の理由]

- ・横須賀美術館の知名度や認知度を向上させていくためには、パブリシティによるメディアへの露出は不可欠です。平成22年度は、各種メディアに当館を取り上げてもらうために、積極的に働き掛けるだけでなくタイムリーな情報提供を心がけ取り組みました。
- ・平成22年度の新聞、雑誌等での掲載数は前年以上となり、一定の成果はあったと考えて

	新聞	美術系雑誌	タウン紙	7/11	情報誌(地域版)	情報誌(全国版)	WEB	ファッション	機関紙	その他	合計	テレビ	ラジオ
H21年度	10	43	34			21	24	4	25		161	8	2
H22年度	40	38	20	18	5	18	15	11	13	8	186	6	10

います。

- ・自主的な広報としては、例年どおり京急線の車内窓上広告や各駅へのポスター掲出が中

心でしたが、試行的に新聞への広告掲出を実施しました。費用対効果が図りづらく断言はできませんが、新聞広告の効果は、高いとは感じられませんでした。

- 全体の評価としては、ある程度の効果はあったと考えられるものの、満足できるものではありませんでした。
- 美術館単独でのアピールには限界があるので、いかに他部課や外部団体と連携していくかが今後の課題になると考えています。

② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】 市民ボランティア協働事業への参加者数のべ 1,000 人
(事業ごとに加算、登録者・一般参加者を総合して)

〔目標設定の理由〕

参加者数は「活動が活発に行われているか」「魅力的な活動を企画しているか」をはかるための端的な指標となります。過去の実績を踏まえ、達成が可能な数値として 1,000 人と設定しました。

〔一次評価の理由〕

22 年度ののべ参加者数は 1,220 人となり、目標を達成しました。

(市民ボランティア協働事業への参加者数)

	プロジェクトボランティア		サポートボランティア		計
	登録者	一般参加者	登録者	一般参加者	
21 年度	115	466	443	254	1,278
22 年度	91	580	375	174	1,220

プロジェクトボランティア

美術館のイメージアップと美術館の利用を高めるため、自らイベントを企画実施するボランティア。主な活動は、市民等が参加し楽しめるボランティアイベントの開催。登録者数 34 名（平成 23 年 3 月末現在）

サポートボランティア

美術館が主催する活動を共感し、自身の知的欲求を充足しつつ美術館活動をサポートするボランティア。主な活動は、ギャラリートークの実施。ワークショップや観賞会の補助。登録者数 14 名（平成 23 年 3 月末現在）

〈プロジェクトボランティア〉

- それぞれの開催時期や、海の広場の立地条件を考慮して企画していることが、たくさんの方が集まるイベントの魅力につながっています。
- 22 年度は、年 3 回（ゴールデンウィーク、夏、冬）イベントを実施しました。前年度（21 年度）はボランティアの負担に配慮し 2 回（夏、冬）としていましたが、ボランティアの間から、良い季節のゴールデンウィークにも開催したいとの声

が上がり、短い準備期間のなかで実現したものです。

- ・特に夏に実施するイベントについては、恒例行事として近隣の子どもをもつ家庭から認知されています。
- ・ゴールデンウィークイベント（海の広場のお花畑）について、企画展ポスター（町内掲示版用 A3 版）のなかでの参加者募集告知を試みました。
- ・冬イベントについては、ケーブルテレビ（JCOM 湘南）ラジオ（FM ブルー湘南）ミニコミ誌（タウンニュース）など多様なメディアの取材に応じ、活動の紹介・イベント告知を行いました。

〈サポートボランティア〉

- ・第 2 期鑑賞サポートボランティアの募集を行い、6 名の仲間が新たに加わりました。一定の研修を経たのち、所蔵品展ギャラリートークなどを担当していただくこととなります。
- ・障害児ワークショップ「みんなのアトリエ」の補助については、ホームページ等で活動を知り、体験したいという希望者が多くいらっしゃいました。

【実施目標】 ふだん美術館に関心を持たない層を含めた市民が、美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。
市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。

[目標設定の理由]

市民感覚を持ったボランティアの方々と協働することによって、市民にとって親しみやすい美術館により近づくことができます。また、美術館への親しみ、愛着を持ったボランティアの方々を架け橋として、より広い層の市民に美術館の魅力を知っていただく機会を増やしたいと考えています。

横須賀美術館のボランティア活動は労働ではなく、美術館の担うべき社会教育の一環です。ボランティアの方々がそれぞれの創意と経験を活かし、仲間どうし協力して、美術館ならではの活動をしていくこと、やがてそれが地域の新しいコミュニティとなることを期待しています。

[一次評価の理由]

〈プロジェクトボランティア〉

- ・イベントを企画する際には、「だれでもやることができる」「フリーで来ても参加できる」「美術館を活かした活動をする」という点に特に留意しました。
- ・イベント当日は、お互いがそれぞれの得意分野を理解し、適切に役割分担をしました。反対に、少し不慣れな活動を行う場合であっても、声をかけ合いながら和やかに準備等を進めることができました。
- ・ラジオや地方情報誌でイベントの広報を行う機会があり、ボランティアの方に出演

していただきました。美術館やボランティア活動についての情報発信の必要を強く意識するようになりました。

- ・冬のイベントには、吉田市長が来場。参加者にまじってプチハウスづくりを楽しみました。

〈サポートボランティア〉

- ・念願の第2期生を受け入れたことで、人手不足からくる閉塞感が緩和され、第1期の鑑賞サポートボランティアの方々にもよい影響があらわれています。第2期生対象のレクチャーにも、ほとんどの第1期生が出席していました。
- ・第1期の鑑賞サポートボランティアの方々については、ギャラリートークや小学生鑑賞会での対応にじゅうぶん習熟し、個性を活かした活動ができています。
- ・研修では企画展の内容についても紹介しており、その結果、内容に興味を持って、友人を誘っての鑑賞につながるケースも多くありました。
- ・障害児を対象としたワークショップ「みんなのアトリエ」については、講師や活動内容に共感し、積極的に参加を申し出る方が多くありました。

【次年度への課題】

ボランティアの負担軽減のため、参加者を増やします。

鑑賞サポートボランティアについては、研修が必要なため、現状では複数年に1回の募集となっていますが、今後は一部の活動について研修途中でも参加できるようにし、機会の拡充につとめます。

プロジェクトボランティアについても、新規参加者の定着率を高めるよう努力します。

活動の新しいあり方を模索します。

Ⅱ 美術に対する理解と親しみを深める

③調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。

[一次評価]

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】 企画展の満足度（補正值）70%

[目標設定の理由]

展覧会を企画・実施することは、美術館にとって基本的な活動のひとつであり、中でも、年間6回開催している企画展は、波及効果が高く、最も力を注ぐべき事業といえます。こうした認識から、企画展に対する来館者の満足度を、美術館の社会教育機能の高さを示す目安の代表として掲げることとしました。

満足度は来館者へのアンケートによって算出しています。同じ方法の調査を継続的に行っており、21年度、20年度の実績から、達成可能な目標として、70%を設定しました。

年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
企画展満足度	70.5%	76.0%	73.2%	78.7%

[一次評価の理由]

目標の70%を達成することができました。数値を年度別に比較すると、過去のどの年度よりも上回っています。

企画展別にみると、「児童生徒造形作品展」を除いては、「ブルーノ・ムナーリ」展の満足度の高さが全体を押し上げていることが了解されます。児童の造形教育についてのムナーリのコンセプトを示す玩具、絵本に実際に触れるコーナーを設けるなど、多種多様な作品の展示によって、子どもから大人まで楽しめる仕掛けを用意したことが、高い満足度につながったと考えられます。

他の企画展の満足度も、概して高い水準に達しているといえます。

「原口典之・若江漢字」展については、満足度は比較的 low 表れています。一般に難解といわれる現代美術を扱う展覧会では、満足度が低く表れてしまう傾向がありますが、一般の理解を促す方法を工夫することによって、改善を目指したいと考えています。

毎年恒例となっている「児童生徒造形作品展」の観覧者の多くは出品された子どもたちの関係者であり、内容を批判する要素に乏しいことから、他の企画展と満足度を比較するには注意が必要です。年度ごとの「企画展満足度」を算出する際には、それぞれの

企画展の観覧者数の比率を反映させています。

直接の評価の対象とはしていませんが、所蔵品展の満足度、谷内六郎展の満足度とも、前年と比べて向上しています。

【実施目標】

- ・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6本（児童生徒造形作品展を含む）の企画展を開催する。
 - ・所蔵品展・谷内六郎展を年間4本開催する。
 - ・大人の知的好奇心を満たし、美術への理解を深めるための教育普及事業を企画・実施する。
 - ・所蔵図書資料を充実させる。
 - ・多くの人々が気軽に利用できるよう、図書室の環境を整える。
 - ・主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。
-

〔目標設定の理由〕

社会教育機関としての美術館は、常に知的好奇心を満足させる事業を発信し、また、そのための環境を整えていかななくてはなりません。

美術として扱うべき領域はとても広く、利用者の幅広い興味に応えるためには、所蔵品展以外にもさまざまなテーマを設けた企画展を開催する必要があります。作品の借用が許される期間に限度があることなどを考慮し、1カ月半から2カ月程度を目安とした年間6本の企画展を計画・開催しています。

また、コレクションの魅力を紹介するために、所蔵品展および谷内六郎展を年間4本開催しています。

さらに、横須賀美術館では、美術への親しみ、理解を深めるために、講演会やワークショップなど、年間を通じてさまざまな教育普及事業を展開しています。子どもたち、あるいは障害のある方など、対象を限定したものについては別項にゆずり、ここでは、広く一般向けの教育普及事業について、評価の対象とします。

これらの事業を企画・実施するための基礎となっているのが、日々の調査研究です。その範囲は、所蔵作品に関することを中心に、広く美術に関すること、美術の教育普及に関することを含んでいます。

〔一次評価の理由〕

22年度の企画展は、海外の美術を紹介するものを中心に、地域を代表する現代美術作家の二人展、作品を所蔵する作家の再評価を試みるものなど、多岐にわたっていました。

菅野圭介展は、忘れられかけていた菅野圭介の画業を再評価する展覧会でした。予備調査を通じて、紹介されてこなかった戦中・戦後期の作品が発掘されたことも大きな収穫でした。

ブルーノ・ムナリー展は、横須賀美術館の特色といえる教育普及活動の要素を、展覧会の枠組みのなかに大胆に取り入れた試みとして、高く評価できます。

ポップ・アート展では、ミニマル・アート、グラフィティ・アートも含む現代アメリカの美術を総合的に紹介しました。大型の平面作品が多く、企画展示室の空間を十二分に活かした展示でした。

いっぽう、イギリス 19 世紀の美術を紹介した「ラファエル前派からウィリアム・モリスへ」展は、20 世紀以降の美術を主に扱ってきた当館にとって、活動の幅を広げる挑戦であったといえます。

「原口典之・若江漢字」展は、地域の作家を採りあげた横須賀美術館ならではの企画でした。

所蔵品展では、会期ごとに特集を組み、必要に応じて一部借用作品も加えて、より魅力のある展示となるよう努めました。

第 1 期では、新発見の油彩《秋の園》を中心に横須賀出身の洋画家矢崎千代二(1872-1947)の作品を特集し、あわせて、所蔵品図録ともなる小冊子を発行しました。

第 2 期では、鎌倉在住の音響彫刻家・原田和男(1951-)の作品を紹介。触れると音の出る原田氏の作品は、展示室の外にも進出し、夏休みの子どもたちに強い印象を残しました。

第 3 期では、横須賀出身の結城英子(1921-2001)の油彩作品を紹介。

第 4 期では、横須賀出身の版画家藤田修(1953-)の作品を特集。あわせて、小冊子を発行しました。

谷内六郎館では、所蔵品展の会期と連動して、年 4 回の展示替えを行っています。会期ごとに、週刊新潮の 1 年分にあたる表紙絵およそ 50 点を順を追って展示しており、22 年度は、1972 年から 1975 年の表紙絵を展示しました。その中で、その年にまつわる小テーマを設けるなど、観覧者の興味をひく工夫をしています。

22 年度の教育普及事業(一般向け)を一覧すると、下表のようになります。

いずれも規模は大きくありませんが、入念な準備によって、それぞれ充実した内容となっています。参加者と講師、主催者の距離が近く、より密なコミュニケーションが可能であることは、事業効果の高さにつながっています。

講演会

タイトル	日時	講師	定員	応募	参加
対談「菅野圭介を語る」	4 月 29 日	梅野隆(東御市梅野記念 絵画館前館長) ×伊豆井秀一(埼玉県 立近代美術館)	70	—	58
ブルーノ・ムナリー・メソッド : 一生の仕事 (講演会+ワークショップ)	7 月 3 日	ベバ・レステツリ (ブルーノ・ムナリー協会 会員、MUNLAB 会員)	40	69	39
19 億円のマンガの絵、 ポップアートの経済効果	9 月 19 日	広本伸幸 (美術評論家)	70	—	39
19 世紀末イギリス <芸術>入門	11 月 7 日	吉村典子(宮城学院 女子大学准教授)	70	—	34
懐かしの昭和 30 年代	11 月 13 日	町田忍	70	—	15

(谷内六郎関連講演会)		(庶民文化研究家)			
原口典之ー持続と反復	2月26日	松本透(東京国立近代美術館副館長)	70	—	21
若江漢字と光学的彫刻	3月6日	山本和弘(栃木県立美術館シニアキュレーター)	70	—	28

アーティストトーク

タイトル	日時	講師	定員	応募	参加
若江漢字アーティストトーク	2月20日	若江漢字(出品作家)	70	—	63
原口典之アーティストトーク	3月12日	原口典之(出品作家)	70	—	26

コンサート

タイトル	日時	講師	定員	応募	参加
菅野圭介展によせるコンサート	4月24日	菅野邦彦(ジャズピアニスト・菅野圭介甥)	—	—	90

展覧会関連ワークショップ

タイトル	日時	講師	定員	応募	参加
体験！ステンドグラス	11月21日①	Nido (ステンドグラス作家)	各回	98	各回
	11月21日②		8		8

オトナ・ワークショップ

タイトル	日時	講師	定員	応募	参加
草のこと教室 in 横須賀美術館	5月15日	かわしまよう子 (花作家)	20	48	20
	5月16日		20	51	19
水彩画ワークショップ「AQUA WORKSー水で描く、水を描く」	9月11日	田島環 (美術家)	12	30	11
	9月12日		12	30	11

映画上映会

タイトル	日時	講師	定員	応募	参加
冬のシネマパーティー 『アリス』	12月4日	キノ・イグルー (シネクラブ)	各日	63	23
	12月5日		25	62	25

企画展・谷内六郎展に関連して計6回の講演会を行ったほか、「原口典之・若江漢字」展では、出品作家自身によるアーティスト・トークを開催しました。そのほか、22年度は、展覧会に関連したコンサートを開催しました。「菅野圭介展によせるコンサート」は、生前の画家を知る数少ないひとりである菅野邦彦氏をお迎えし、画家の思い出話をまじえて演奏していただきました。

ワークショップは、子どもを対象に行うケースが多いのですが、当館では特に大人の方を対象として「オトナ・ワークショップ」を例年開催しています。22年度は、野

草を用いた生け花のワークショップと、水彩画のワークショップを行いました。

また、展覧会に関連するものとして、「ラファエル前派からウィリアム・モリスへ」展にステンドグラスが出品されることから、大人を対象としてステンドグラス制作を体験するワークショップを開催しました。

映画上映会は、「シネマパーティー」として恒例化しているイベントです。

それぞれの事業の基礎には調査研究があり、その成果の一部は企画展カタログをはじめ種々の印刷物等で発表しています。

図書室では、所蔵資料の充実に努めるばかりでなく、気軽に入ってこられ、のんびり過ごすことのできる環境づくりの工夫を重ねています。認知度向上のための取り組みも一定の成果につながっています。

【次年度への課題】

各展覧会の満足度は現に向上する傾向にありますが、解説をより充実させるなど、展覧会の内容を理解しやすくすることへの努力によって、さらなる向上を目指します。地元作家の発掘など、地域に根差し、オリジナリティのある調査研究を進めます。

④学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】 中学生以下の年間観覧者数 15,000 人

〔目標設定の理由〕

子どもたちが美術館に親しみを持ち、利用しやすくするためのさまざまな取り組みをしていますが、その成否は、実際の観覧者数に反映されるはずで、過去の実績を踏まえ、取り組みの工夫と強化で達成可能な数値として 15,000 人と設定しました。

〔一次評価の理由〕

22 年度の年間観覧者数は 16,433 人となり、目標を達成しました。

（中学生以下の観覧者数）

	幼児	小学生	中学生	計
19 年度	3090	11038	3048	17176
20 年度	1586	9560	2348	13494
21 年度	1706	10981	2252	14939
22 年度	3074	10418	2941	16433

「幼児」の観覧者数の増加が目標達成につながっています。

6 月末～8 月に開催した「ブルーノ・ムナーリ」展、および 7 月～9 月末の第 2 期所蔵品展で特集した原田和男作品では、特に「さわって楽しむ」タイプの展示が話題を呼び、小さな子どもとともに来館するお客様が目立ちました。7・8 月の「幼児」の観覧者は前年比の 2.4 倍、また、学校単位での来館がない 8 月の「小学生」の観覧者も 1.7 倍となっています。

1 月の児童生徒造形作品においても、私立幼稚園児に対して WS 参加を呼びかけたことや、その作品を会場に展示したことなどから、1 月の「幼児」の観覧者は前年度の 5 倍強と急増しました。また、1 月の「中学生」の観覧者はそれまでの 4 倍強となりましたが、ポスター・チラシの配布時期を工夫し、学校での周知を促進したことが要因と考えられます。

【実施目標】 学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。
学校と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。

子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。
鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。

[目標設定の理由]

美術教育は表現と鑑賞との両輪によってなりたつものですが、多くの学校教育現場では鑑賞の機会に乏しく、造形教育に偏りがちでした。

近年の年度にわたる学習指導要領の改訂にともなって、小・中学校における鑑賞教育がより重視されるようになってきています。平成 23 年度から実施される小学校の新学習指導要領では、鑑賞教育のために地域の美術館を利用することに加え、学校と美術館との連携を図ることが明示されました。

学校教育ではできない、美術館にしかできないことは何かをじゅうぶん意識しながら、鑑賞教室やワークショップ、作家との連携等充実したプログラムを企画、提供することによって、子どもたちが美術に親しみをもつ機会の拡充につとめていきたいと考えています。

[一次評価の理由]

- ・子どもを対象としたワークショップなどに積極的に取り組んでいます。前年度、別のイベントのために設営した野外スクリーンを利用するかたちで開催した野外映画会の好評を受けて、今年度も子ども向けの映画会を開催しました。

- ・前年度にひきつづき、未就学児のためのワークショップ（「まほうの巨大ぼうえんきょうをつくろう」3月12日・13日に開催予定）を計画していましたが、3月11日に発生した東日本大震災とその後の計画停電等の混乱によって、中止を余儀なくされたことは残念でした。

- ・開館2年目の平成20年度から、市内の子どもたちの作品を一堂に展示する「児童生徒造形作品展」の会場となっています。学校・幼稚園と緊密に連携しながら、運営にあたっています。

- ・市内の全47小学校の6年生を対象として、「美術館鑑賞会」を実施しています。対応には複数の職員（学芸員）と鑑賞サポートボランティアがあたり、ワークシートなどを利用して、鑑賞の楽しさを知ってもらえるよう努力しています。受け入れ側が経験を積むことによって、鑑賞内容も充実に向かっていきます。

- ・市外や私立の小・中学校団体に対しても、事前の相談を経て、注意事項についての話やワークシートの提供を行うことがあります。

- ・夏休みの時期にあわせ、「中学生のための美術鑑賞教室」を実施しています。参加は任意ですが、広報する地域を拡げたところ、今年度は市外中学生の増加が目立ち、結果として過去最高の参加者を数えました。参加者への「鑑賞ガイド」配布や、個々の相談に応じる姿勢が、誘致につながっていると考えられます。

- ・「アーティストと出会う会」では、会場に作品を持ち込み、講師を囲んで、現在までの道のりや夢に向かう姿勢を語るかたちが人気を呼んでいます。

【次年度への課題】

- ・学校との連携をさらに深めます。
- ・子どもたちや学校のニーズを把握し、より魅力的で、充実したプログラムづくりにつとめます。

⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
—	C

【達成目標】(なし)

〔目標設定の理由〕

購入費（基金）が充当されていないため、収集は寄贈に頼っている状況です。

寄贈される作品の質については、専門家による外部委員会である「美術品選定評価委員会」によってすでに保証されていますが、作品の収集は数量によって評価されるべきではありません。

作品の修復、額装等の処置についても、個々の事例に即して対処しているため、やはり数量的な評価に適していません。

作品の貸出は、依頼に応じて行う性格のものであり、また、作品保護の観点からも数量的な評価をすべきではないと考えます。

したがって、この項目では達成目標を設定しません。

【実施目標】 収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。

適正な保管環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。

計画的に所蔵作品の修復、額装を行う。

所蔵作品がひろく価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。

〔目標設定の理由〕

すぐれた美術作品をひろく収集し、次世代に伝えてゆくことは、美術館の果たすべき基本的な役割です。そのために、保管のための適切な環境整備と、作品そのものの修復および保護を行っています。他の機関での展示等の所蔵品の活用は、作品への影響をじゅうぶんに考慮したうえ、可能な範囲で行っています。

〔一次評価の理由〕

作品の収集は、寄贈のみに頼っているにも関わらず、平成 20 年度以降、毎年 50 点を超える作品を受け入れています。作家本人、遺族からのご寄贈の場合、展示で活用してゆくために修復、額装が必要であるケースがほとんどです。また、短期間で多くの作品を寄贈によって受け入れることには、長期的にみたときに、コレクションのバ

ランスを崩してしまうおそれもあります。今後このようなペースで作品を受け入れてゆくことは、むしろ適切ではないと考えます。

収蔵庫・保管庫について、昆虫類、菌類、気相についての調査（環境調査）を年度内に 2 回実施し、大きな問題のないことを確認しています。開館以来継続的に行っていることには、環境の長期的な変化を観察する意味があります。

近年の寄贈作品を中心に、必要な修復、額装を行っているほか、既存の作品でも画面への映り込みがはなはだしいものについては、低反射のガラス、アクリルへの入れ替えを進めています。時間のかかる作業であるため、予算の範囲内で少しずつ計画的に行っています。

所蔵作品の活用について、個展を中心に所蔵作品のうち 14 件（寄託 2 件を含む）を他機関に貸し出しました。当館の所蔵品が、その作家の画業を振り返る上でも重要な作品とみられていることを示すのにじゅうぶんな実績といえますが、件数では平成 21 年度実績の 16 件よりやや減少しています。

以上を総合的に見て、ほぼ前年度並みの活動をしているといえますが、作品購入費の充当が途絶えている異常な状況が解消されていないことから、一次評価を「C」としました。

【次年度への課題】

作品購入費の予算化を検討します。

収集作品を精選します。

貸出作品の偏りを減らすため、所蔵作品の活用と周知につとめます。

Ⅲ訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する

⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。

[一次評価]

達成目標	実施目標
B	B

【達成目標】 館内アメニティ満足度 80%以上
スタッフ対応の満足度 80%以上

[目標設定の理由]

館内アメニティ満足度については、来館者が気持ちのよい時間を過ごしていることを示す指標であると考えます。21年度から、アンケートのなかに質問事項を加え、「全体的にみて、館内では気持ちよく過ごすことができた」に対する満足度を指標（総合満足度）としました。21年度の調査結果を踏まえ、達成可能な目標として、80%以上と設定しました。

スタッフ対応の満足度については、来館者アンケート「スタッフの対応・案内は適切だった」に対する満足度であり、20年度、21年度の調査結果をもとに、達成可能な目標として80%以上と設定しました。

[一次評価の理由]

館内アメニティ満足度については、前年度に引きつづき高い水準にあります。スタッフ対応の満足度については、惜しくも目標に到達できませんでした。完全には目標を達成していないため、B評価とします。

	22年度	21年度	20年度	19年度
館内アメニティ満足度	88.5%	88.7%	未調査	未調査
スタッフ対応の満足度	78.0%	79.0%	69.6%	78.9%

【実施目標】

- ・ 建築のイメージを損なわないよう、じゅうぶんなメンテナンス、館内清掃を行う。
- ・ 受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。

- ・受託事業者と協力して、付帯施設（レストランおよびミュージアムショップ）を来館者ニーズに応じて運営する。
-

[目標設定の理由]

横須賀美術館が来館者に好ましい印象を持たれている大きな要因として、周囲の豊かな自然と、その風景と調和したユニークな建物があります。しかし、海のそばに立地していることから、強い風雨にさらされることも多く、また塩害によって老朽化の速度が進んでいることも事実です。建築の魅力をいつまでも来館者に伝えていくためには、適切なメンテナンス、清掃を継続してゆくことが重要となります。

さらに、ご案内をするスタッフの対応いかんによって、美術館における体験の質は大きく左右されます。受付・展示監視スタッフは受託事業者ですが、市職員との緊密な連携を図り、一体となって、来館者の立場に立ったよりよい接客を目指します。

美術館体験のなかで、買い物や食事をする 것도、来館者の大きな楽しみです。やはり受託事業者であるレストランおよびミュージアムショップと連携し、来館者のニーズに即応したサービスの提供がなされるよう、知恵を出し合い、工夫を重ねてゆきます。

[一次評価の理由]

(メンテナンス)

- ・敷地内園路沿いのアジサイを補植しました。

(休憩所)

- ・繁忙期（GW・夏季）の休憩所を確保するため、屋外休憩所（テント）を設置しています。（20年度以降毎年）

(清掃)

- ・日常の清掃について、人員が必ずしも充分ではない（開館前4名・日中1名）ので、利用状況に応じて重点を移す効率的な清掃を心がけています。

(災害時の対応)

- ・避難訓練を実施しています。

(スタッフ対応)

受付や展示監視に従事するスタッフは、来館者と直に接するためクレームの対象となりやすく、特に展示監視は来館者への注意なども業務として行うため、どうしてもクレームと切り離せない状況です。対応が悪いとのクレームは開館当初から多く、現在でも年に数件のクレームはありますが、受託事業者の自助努力（研修、スタッフの入替など）や、館内における情報の共有化の促進によって日々改善の努力を続けており、21年度以降は満足度の数値も一定以上の水準に達しているといえます。

- ・運営事業者連絡会議の開催（21年度以降継続）

→レストラン、ショップ、受付、展示監視、広報・総務・学芸の各担当が集まり、館内で起こっている諸問題について情報共有、改善の提案をしています。(月例)

・展示監視日報 (21年度以降継続)

→情報共有、対応方法の指示をきめ細かに、リアルタイムで行うため、来館者からのクレームの内容、対応等の記録、報告を展示監視事業者に対して義務付けています。

・受付・展示監視研修の実施 (22年度)

→展示監視スタッフについて、学芸員も参加して実地(ロールプレイング)研修を実施しました。(受付スタッフについても予定していましたが、震災の影響で延期)

(ミュージアムショップ)

・季節限定のオリジナル商品の作製販売など、季節やニーズに合わせて満足度向上のための自助努力に努めています。

・谷内六郎館内ショップ閉鎖 (21年度以降継続)

11月から4月下旬の平日、冬季の来館者数が減少傾向にあり、事業を継続するため事業者の要望を受け入れた措置。

(レストラン)

運営事業者の自助努力(スタッフの充実、メニュー改善など)により満足度はかなり向上しています。満足の理由として多いのは、「質の高い食事」のほかに「景色がよい」こと。また、メニューの見直しを行い、低価格帯メニューを増やしたことで、過去に意見の多かった「価格設定が高い」という意見は激減しました。不満の理由としては、長時間待たされる、混んでいて入れない、など利用したくてもできないケースが多く、その他、室温に対する不満(夏暑く、冬寒い)が目立っています。

・企画展ごとに「コラボメニュー」を考案して提供した。(21年度から)

・混雑時の顧客のストレスを軽減するため、土日祝日については事前予約をとらず、先着順に対応。(21年度から)

・混雑が予想される連休等にあわせて、ケータリングカーを誘致し、より多くの来館者に食事を提供できるようにした。(20年度から)

・レストランウエディングを実施。

・WS室を利用し、料理教室を開催。

【次年度への課題】

・休憩所、特に飲食可能な場所の確保については、ハードにかかわることであり、長期的な課題として認識しています。

・塗装外壁の劣化、および鉄部の錆が目立ってきており、早急に対策を講じます。

・災害時の対応について再検討し、避難マニュアルを作成します。

・レストランの席数はハードの問題であり拡大することは困難であるため、事業者とよく連携し、接客の工夫によって利用者のストレス軽減につとめます。

・レストランの室温に関しては、ガラス壁面など構造的な問題(ハード面)のほかに、店外待機者との対応やテラス席への食事運搬などの利用客増に伴う入口扉の長時間開放など、

運営上の要因もあります。空調機の増設を検討中。

⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える。

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】 福祉関連事業への参加者数のべ 200 人

〔目標設定の理由〕

過去の実績を踏まえ、企画の内容や取り組みの工夫、広報の強化で達成可能な数値として 200 人と設定した。

〔一次評価の理由〕

22 年度の福祉関連事業への参加者数はのべ 539 人となり、目標に到達しました。

(福祉関連事業への参加者数)

	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度
講演会	20	20	27	35
ワークショップ	25	19	16	43
みんなのアトリエ		115	101	114
その他	67	73	250	347
計	112	227	394	539

当年度については、福祉パフォーマンス（原田和男氏）の参加者数による底上げによって人数目標が大幅に達成できたと言える。

【実施目標】 年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親んでもらう（環境づくり）のための各種事業を行う。

必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。

〔目標設定の理由〕

- ・各種事業を通じて、美術館が健常者のみの施設ではないこと、障害の有無に関わらず美術を楽しむこと、また各年齢や状況に応じた楽しみ方があることを伝える。
- ・福祉を充実させる設備や什器の新規導入ではなく、まずは対話鑑賞などの人的対応によって満足度を上げる。また職員は、障害者等のニーズを、実地を通して知ることによって、次年度以降の取り組みや長期計画に活かす。

[一次評価の理由]

- ・障害児向けワークショップ「みんなのアトリエ」では、リピーターに加え、新規参加希望者も見られ、口コミで確実に活動のことが広がっている。講師はもちろん、職員も参加者の特徴や障害者に対する対応がある程度つかめてきて、相互の信頼関係も築けてきたように思われる。
- ・福祉ワークショップは例年視覚障害者を対象とすることが多かったが、今回は知的障害者を対象とし、内容も制作ではなく身体表現とし、新たな対象に呼び掛けることができた。
- ・福祉パフォーマンスは参加者も多く、魅力的な内容だったが、実際に参加した障害者数は少なかった。広報や障害者が来場した場合などの準備は福祉の観点にそって進められたが、今後は情報をもっと障害者に届くよう工夫し、来館しやすい状況をつくる必要がある。また、福祉講演会や託児サービス、対話鑑賞についても同様の努力を必要とする。

【次年度への課題】

- ・「みんなのアトリエ」については、リピーターも多いため、新たな活動内容を講師とともに充実させる必要がある。また、広報によって年度末の作品展示への来場者を増やすなど努力の余地がある。
- ・福祉講演会や託児サービス、対話鑑賞については毎年定員に達しないことが多いため、次年度以降も広報の工夫等、障害のある人や小さな子どもがいる親子連れのアクセシビリティの向上などの努力が必要である。託児サービスについては、土日だけの実施ではなく、平日の実施も試みるなど小さな子を持つ保護者の動向を知り、ニーズに合った実施内容を探る必要がある。
- ・養護学校については、常連校ができたが、その分活動内容に幅をもたせて、同じことの繰り返しとならないよう留意したい。

⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する

[一次評価]

達成目標	実施目標
—	B

【達成目標】(なし)

[目標設定の理由]

美術館は教育施設のため、収益を目的とはしませんが、経営的視点をふまえた美術館の評価を示すことも公立美術館として求められていると考えられるため、評価項目としています。しかしながら、具体的な数値を示して目標とすることは、事業の質の低下につながるおそれがあり、美術館評価の取り組みの方向性を異にすることと考えられます。

したがって、この項目では達成目標を設定しません。

【実施目標】職員すべてが費用対効果をつねに意識し、効率的な支出を行う。

[目標設定の理由]

公立美術館は収益を目的とはしていないため、民間企業の経営手法を取り入れることは無理があります。しかしながら、より少ない経費でより効果的に事業を執行することは日ごろから取り組まなければなりません。サービスの質を低下させずに経費削減を目指すには、職員全員が費用対効果を常に意識した行動が必須であると考え、これを目標としました。

[一次評価の理由]

日ごろの事業を執行していく中で、費用対効果を考え、事業を執行してきたと認識しています。したがって、おおむね目標は達成できたと考えます。

具体的な内容の主なものは、次のとおりです。

- ・予算の執行に当たっては、定められた基準等により契約額および契約先は入札によって決定することとなります。入札による競争によって、業務の質を担保しつつ最も少ない経費で業務を執行することができるため、対象となる案件については確実に付すことを行い経費削減を実現しています。
- ・当館は、ほとんどの使用エネルギーは電気であり、空調機が最も電力を使用することから、空調機の熱源水槽の効率的な稼働を調査し、日々の天候や来館者数等によって稼働を調整することで、電気使用量の削減につなげました。

- ・企画展ごとの京急線各駅へのポスター掲出について、効果を高めるため見直しを行い、掲出するポスターのサイズをB 2判からB 1判とし、乗降客数の多い30駅に集中させました。
- ・パンフレット類の印刷において、配布状況を把握し印刷枚数を調整して支出を抑えました。この残額を使って、来館者に好評で地域の話題になった職員手作りの「美術館周辺おさんぽマップ」や馬堀海岸駅、浦賀駅からの「ウォーキングマップ」をカラー印刷で製作しました。
- ・事業ごとに配当されている事務用品等の購入予算（消耗品費）の執行について、汎用性のあるものを一か所でまとめることで、無駄なストックをなくしました。

しかしながら、展覧会の図録やチラシの製作に際して、会期中に不足したため増し刷りを行った。これは当初の見込みが甘かったためであり、今後は計画的に行えるよう観覧者数予測についても十分な検討をしていく必要があります。

【次年度への課題】

市の財政も厳しいことから、やむなく予算を削減された部分もあり、今後、従来どおりのサービスの質を提供できなくなることも考えられます。引き続き予算執行にあたっては、創意工夫と計画的な執行に努め、サービスの質を維持していくよう、職員相互に連携を図りながら取り組まなければなりません。

評価委員会による二次評価

I 美術を通じた交流を促進する

①広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。

	1次評価	2次評価	評価委員会コメント
達成目標	A	A	郊外という立地性や、震災というアクシデントがあったにも関わらず、観覧者目標を達成したことは評価に値する。集客要因の分析を示すべき。

・過去の入場者数を基盤に設定した数値 10 万人を上回ったことは、美術館の立地性等を鑑みても、A 評価は妥当である。[小林]

・目標は達成できているが、来館者の増加を図るとともに、観覧者を増やすもうひと工夫が欲しい。来館者の年代もほぼ均等化してきていて、いいと思う。認知手段についてはチラシが伸びているが、駅等における広告も印象に残り効果的だと思われるので、これからも京急、JR 等に協力してもらいしっかり PR してもらいたい。[佐倉]

・地震などの影響があったにもかかわらず、目標を達成したことについては、充分評価すべきである。ブルーノ・ムナリー展では、同時開催していた原田和男の所蔵作品展とのタイアップが、夏休みの親子連れにとって楽しめる内容であったことが、予想外の集客につながっていたと思う。しかし全体を見ると企画展ごとの集客のばらつきも気になる。時期的なものも大いに影響すると思われるが、何が集客につながり、何がつながらなかったのか、今後とも観覧者予測の根拠となるものも含め、原因をきちんと分析していく必要がある。[杉戸]

・夏休みにむけて子供にも楽しめる企画を持ってきているのはうまいと思う。[水島]

・大人も子供も共に楽しめるのは大変けっこうなことである。[水島]

・冬の集客が弱いのか？[水島]

・それぞれの展覧会の集客要因についての分析が 1 次評価に含まれていたほうがよい。[山梨]

・23 万人前後で安定しつつある「来館者数」についても、考慮に入れるべき。[山梨]

	1次評価	2次評価	評価委員会コメント
実施目標	B	A	パブリシティへの努力が感じられ、露出は高かった印象がある。期待した効果につながらなかった経験からも学んで、多方面での広報に挑戦してほしい。Web 上の広報も進めるべき。

・パブリシティへの働きかけはかなり評価できる。さらに横須賀市の市立美術館としての特性を活かし、市の広報誌と連携をはかり、地域社会に向けて催事の内容がわかるような PR 活動を一層強化する。また、外部団体との協力による PR 活動も大切である。そうした諸点の課題を残しているため B 評価とした。[小林]

・22 年度は露出が高かった印象がある。幅広い層に訴えたいという美術館の意思が広報に結びついていた。[菊池]

・パブリッシングにはやってみなければわからないものも多い。果敢にチャレンジし、反省すべき点

は反省して次につなげる努力を続けてほしい。[菊池]

・認知手段についてはチラシが伸びているが、駅等における広告も印象に残り効果的だと思われるので、これからも京急、JR等に協力してもらいしっかりPRしてもらいたい。新聞雑誌に関する掲載実績表を見てしっかり頑張っているなあと感じて、ただ観覧者が10万人を超えたらAというのではなく努力した結果と言うことでAをつけたい。[佐倉]

・美術館開館当初とは違い、目新しさもなくなり美術館への関心が薄くなりかけている事も踏まえ、継続的に努力を進めていくべきである。[杉戸]

・様々なイベントを開催しているのも横須賀美術館の特徴であるので、そのようなイベントの紹介ももっと積極的に行っても良いと思われる。[杉戸]

・今までは目新しさもあって努力なく各メディアに取り上げられていたこともあると思う。[水島]

・今後継続して取り上げてもらう努力が必要。やはりTVは大きいので、美術系番組に積極的にアピールを(ぶらぶら美術館など)他美術館へのポスター掲出、美術系雑誌情報誌は積極的に活用を。[水島]

・効果の測りにくい目標であるが、低予算のなかで、ということを考えれば、Aに値すると考えられる。[山梨]

②市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。

	1次評価	2次評価	評価委員会コメント
達成目標	A	A	ボランティアとの協働事業は、活発に行われている印象。

- ・ボランティアが「積極的に参加」し、彼らが活動に参加するうえで「不都合は特にない」という数字の割合が高いことからみて、ボランティアとスタッフとの関係がうまく機能していると言える。現在サポートボランティアの登録者数は14名であるが、美術館が主催する活動の共感者を募ることも重要である。そうした課題は残るが、この項目に関する評価についてはAとする。[小林]
- ・21年に比べてボランティアが減少しているが、三月の震災の影響もあったためと思う。[佐倉]
- ・延べ人数もいいが、ボランティアそのものの人数を増やす、すそ野を広げるよう、今一段の努力をしてほしい。[佐倉]
- ・市民が自分たちの市の美術館であるという事を、ボランティア活動により実感し、ともに築き上げていくという意識が素晴らしい。[杉戸]
- ・他美術館の活動はよく分らないが、活発な活動が行われているように思う。[水島]
- ・イベントとしての認知も定着してきた感があるが、ボランティアの人員の広がりには難しさを感じる。ボランティア協働事業というが、そもそも、美術館として何を意図しているのか？はっきり分らない。と感ずることも…。[水島]

	1次評価	2次評価	評価委員会コメント
実施目標	A	A	ボランティア活動の取り組みは評価できるが、すそ野を広げることが課題。ボランティアが活動しやすくなるよう、環境を整備すべき。

- ・所蔵品展の「心的充足」が59パーセント、総合65.8パーセントは、企画展に比べて低く、市民層の美術館に対する関心を高めるには、今後課題を残しているように思える。また、ボランティアのアンケート結果では、彼らが活動を通して美術館ファンの拡大に貢献して行きたいという意向が読み取れることから、今後はその辺りを課題としてボランティアの手を借り市民に親しまれる美術館づくりを考えることも一つの手立てではないだろうか。課題は残るが評価としてはAとした。[小林]
- ・21年に比べてボランティアが減少しているが、三月の震災の影響もあったためと思う。ボランティア募集についてはアンケートの結果を踏まえて、やる気のある方の意欲が盛り上がるような活動しやすい計画を組む等、ボランティアの楽しさをアピールし少し頑張ってもらいたい。[佐倉]
- ・市民が自分たちの市の美術館であるという事を、ボランティア活動により実感し、ともに築き上げていくという意識が素晴らしいが、そのような機会を設けている美術館の姿勢も評価に値するものである。[杉戸]
- ・行政的な制約もある中で、うまく企画していると思うし努力が感じられる。[水島]

・ただ、一般的な市民に認知され、親しみを持って受け入れられていくには、さらに継続していかなければならないと思う。その意味でも、ボランティア人員の広がりが課題と思う。[水島]

Ⅱ 美術に対する理解と親しみを深める

③調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。

	1次評価	2次評価	評価委員会コメント
達成目標	A	A	満足度は高いといえる。時には、経費がかかってもたくさんの人を呼べるような展覧会をしてほしい。

- ・企画展の満足度は78.73パーセントと高く、それに付随した関連事業講演会等も有効に機能したと言える。その点を評価してAとした。[小林]
- ・厳しい予算の中、企画展の候補を選定するのは厳しいものがあると思うが、年に一度または隔年に一度美術の教科書に掲載されるような企画展を計画してほしい。[佐倉]
- ・満足度と言うのは個人差もあると思うがやはり知名度ではないかと思うので70%が80、90%に上がるような夢ある企画を工夫してほしい。[佐倉]
- ・企画展ごとのばらつきはあるものの年々満足度が上昇傾向にあること自体は評価すべきである。現代美術を扱う展覧会については、「答えがわかりやすいもの」を求めている来館者にとっては難解であると思われる。しかし、アートはひとつの答えを求めるものではなく、複数の多様な考え方を認めるものであるということが、企画展を通し多くの観覧者に浸透していくことを望みたい。[杉戸]
- ・個人的にはポップアート展がとても良かった。ポップアートへの認識が変わったかもしれない。アートの持つ力強さに圧倒された。関心がなかっただけに見てよかった。エネルギーをもらった。これが、身近な美術館の役割りだと思う。ラファエル前派を近場で楽しめたのもうれしかった。[水島]

	1次評価	2次評価	評価委員会コメント
実施目標	A	A	展覧会、ワークショップの実績については高く評価する。図書室を来館者の視点でさらに利用しやすいものにしたい。

- ・企画展の満足度の高さは実施目標が履行された結果であるとして評価したい。図書室については平成22年度かなりの環境整備がはかられたようであるが、一層の利用者の目線での改善が求められる。その意味では平成23年度以降の課題になっている「児童書蔵書の活用」、「蔵書データのweb公開」等の整理も必要になってくる。課題は残るがA評価とする。[小林]
- ・企画展の本数の年5本(児童生徒造形作品展を除く)というのは、標準的な数なのでしょうか。[佐倉]
- ・児童生徒造形作品展は非常にいいと思います。[佐倉]
- ・できれば、年齢を問わない造形作品展を開催するというのは難しいですか。団塊世代で第2の人生で美術に取り組もうとするひともあるときいています。[佐倉]
- ・企画展の内容は幅広くバランスがとれている。[杉戸]
- ・所蔵作品・資料の充実も欠く事のできないものである。(所蔵作品展では「朝井閑右衛門」コーナーが、常設展示されているが、もう少し詳しく作家紹介がされているとおもしろい。ここに来館すれ

ば「朝井閑右衛門」についていろいろと学習ができると思えるような装置)[杉戸]

・図書が充実しているのに利用環境が整っていない。展覧会を見て図書を利用する余裕がない。
[水島]

・ワークショップの充実は魅力的。[水島]

・映画上映会は、今後も楽しみにしている。抽選にはずれて残念。[水島]

④学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。

	1次評価	2次評価	評価委員会コメント
達成目標	A	A	学校への働きかけを盛んに行っていることが、結果につながっている。

- ・目標の 15,000 人を達成したという点を評価する。今後の課題としては、自治体の美術館として、英国にみるように、子供たちの学習の場としての機能と役割を高めるための活用方法を模索することが求められる。数値目標の達成を評価して A とする。[小林]
- ・学校と連携する、というが、観覧者数の底上げが目的であってはならない。子どもたちにどのような「気づき」を与えられるかが大事。鑑賞会の狙い、前後を含む指導方法について、学校と美術館が共通の問題意識をもってあたるよう連携を深めるべき。[菊池]
- ・22 年度は、体験型の展示が特徴的だった。子どもたちが楽しめる企画を、学校との連携と組み合わせることで、市民のなかでの美術館の認知、存在意義が高まっていくと思う。[菊池]
- ・美術館には、単なる絵の鑑賞、彫刻の鑑賞だけでない、鑑賞することにより人の心の優しさやゆとりを学ばせる場所だと思うのでこれまで以上に積極的に教育委員会、学校に働きかけてほしい。[佐倉]
- ・プログラムについても子供たちの目が輝くようなわくわくする機会を提供してほしい。[佐倉]
- ・夏休みに企画されている美術鑑賞教室や、小学校6年生を対象とした美術館見学は、とても有意義である。きめ細かく美術館から市内各学校に向けて宣伝の文書を出し、積極的に働きかけていることも評価に値する。[杉戸]

	1次評価	2次評価	評価委員会コメント
実施目標	A	A	作品を前に感じる、考える力のある子どもを、学校と美術館が連携して育てたい。体験型の作品が多かったことを評価する。

- ・ここに掲げられている実施目標の達成があって目標の数字の達成が可能になったが、この実施目標は今後ともより深化させることが肝要である。全体としては実施目標に達しているので A 評価とする。[小林]
- ・児童生徒造形作品展は学校現場と直接につながる有意義な企画ではあるが、美術館側の理解無くしてはあり得ない企画である。その点において横須賀美術館はよく努力しているし、これについては評価すべきである。[杉戸]
- ・美術館は子供たちに様々な企画・イベントを通し、作品や人との出会いを提供してくれている。将来を担う子供たちへのこういった働き掛けは、大変有意義である。[杉戸]

⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。

	1次評価	2次評価	評価委員会コメント
達成目標	—	—	

	1次評価	2次評価	評価委員会コメント
実施目標	C	C	購入資金がないことは美術館にとって決定的なマイナス。しかし、そうした状況での収集活動には努力がうかがわれる。

- ・保管環境の状況や所蔵作品の修復状況については、報告書を見る限りではそれなりの努力がみられる。その点に関しては B と評価したい。しかし、予算の関係があつてか、作品収集の状況は寄贈と寄託に依存しており、美術館としての独自の収集方針に基づく収集活動という点では問題がある。また、長期的にみてのコレクションのバランスを考慮して受け入れを考えることが必要である。そのため項目全体としての評価は C とする。[小林]
- ・予算のないところで評価を付けるのは、難しい。C というのは仕方がないのかもしれないが、厳しい。[佐倉]
- ・所蔵作品の充実を図るための作品購入費が予算化されていないことから、現状での目標達成は不可能に近いのではないか。[杉戸]
- ・購入予算がないなかでは、それなりに努力が認められる。[山梨]
- ・根幹となるコレクションを育て、よい作品の寄贈を招くためにも、購入費は必要。多額でなくてもよいから計上すべき。[山梨]

Ⅲ訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する

⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。

	1次評価	2次評価	評価委員会コメント
達成目標	B	B	実際に館内を見ての印象はおおむね良いと思う。だが、アンケートにあらわれた兆候は重く受け止め、問題意識を持つ必要がある。

- ・平成22年度の達成目標が80パーセントということでB評価とするが、館内を利用した印象か、アメニティ並びにスタッフの満足度の両面から見ると評価Bは限りなくAに近いものである。[小林]
- ・周囲の景観に助けられている面もあると思うが、館内はきれいで、さわやかな印象を持って入場できると思う。[佐倉]
- ・スタッフにはただ立っただけでなく、難しいとは思いますが観覧者の様子を見て、作品の説明をしてほしい。[佐倉]
- ・わずかではあるが、完全には目標を達していないという点からみて予断を許さない状況ではある。今後とも継続的に努力をしていくべきである。[杉戸]
- ・おおむね良いと感じているが、スタッフの対応はサービス業と考えてさらに来館者が心地よく過せるよう心がけてほしい。[水島]

	1次評価	2次評価	評価委員会コメント
実施目標	B	B	館内外の施設の維持を心がけてほしい。震災を経験して、非常時における安全確保も大きな課題となった。

- ・日常的な清掃要因が必ずしも十分でないことやレストランやショップを受託事業者に委ねていることで、トータルな観点での「心地よい空間をつくりだす」には難しさもあるが、そうした点を考慮してのスタッフの努力がみられる。評価をBとしたが、限りなくAに近い。[小林]
- ・清掃については、トイレ等の汚れで一切が無に帰してしまうこともあるので、巡回等で清潔感を維持してもらいたい。[佐倉]
- ・レストランのメニューにひと工夫をしてほしい。[佐倉]
- ・ショップは、横須賀美術館でしか買えないグッズをいくつか考えてもらいたい。[佐倉]
- ・海の近くということもあり、震災時には津波などの影響も十分に考えられるが、完全に孤立してしまう心配をまざまざと感じる。来館者が安心して美術館に訪れられるよう、万が一の災害時の対応や備えは万全にしておくべきである。[杉戸]
- ・ケータリングカーのサービスなど、来館者のニーズに応じて誘致している事は美術館の努力を感じる。[杉戸]
- ・特に館内の清掃は念入りをお願いしたい。[水島]

⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える。

	1次評価	2次評価	評価委員会コメント
達成目標	A	S	障害のある人と健常者がともに楽しむ場づくりに成功している。目標数値を大きく上回ったことを素直に評価したい。

- ・参加者数のべ200人を大きく上回っていることや知的障害者に対しての呼びかけを行っての活動の展開を考えると、A評価であるが限りなくSに近い。[小林]
- ・これからも障害があるなしにかかわらず、美術の鑑賞は心に栄養を与えると思うので頑張ってください。[佐倉]
- ・目標人数を大きく上回っており(倍以上)、すぐれた成果を上げていると評価して良いと考える。[杉戸]

	1次評価	2次評価	評価委員会コメント
実施目標	A	A	人的対応を通じて、職員と来館者が学びあう姿勢が感じられる。ボランティアの活用を進めるべき分野。

- ・スタッフは障害者のニーズを採り入れながら活動を展開し、美術に親しんでいる環境づくりに余念がない。実施目標に達しているのでA評価とする。[小林]
- ・「これで私は美術館が好きになった。とか。ここが一押し。」といった一言を短冊等を書いてもらい、掲示板に張ってもらうのはどうでしょうか。[佐倉]
- ・高齢者にも心のオアシスとして、美術館に来てもらいたいので町内会や老人会にも声をかけられたらいいと思います。[佐倉]
- ・職員の人的サポートへの積極的な取り組みによって、障害のある方などの理解につながり、ある意味では、職員と来館者が互いに学び合うという構図ができあがっている。これは、福祉関連事業のみならず、そのほかの美術館運営の点においても大切なことである。今後ともこの実践を続けていってほしい。[杉戸]
- ・その取りくみにいつも興味を持ってみている。ボランティアで参加させてもらいたいと思う。[水島]

⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する。

	1次評価	2次評価	評価委員会コメント
達成目標	—	—	個別的、限定的なものでよいので、具体的な目標を設定すべき。

・全体の削減目標を立てられないのは理解できるが、効率化のための個別的な取り組みについて、比較検証可能なものは具体的な目標を立てたほうがよい。[菊池]

	1次評価	2次評価	評価委員会コメント
実施目標	B	B	職員の具体的な努力は理解できる。開館日、開館時間などの合理化は課題として残る。

- ・予算の関係で苦しい運営が余儀なくされていることから、「費用対効果を意識する」ことがスタッフの課題になっている。そのために自らの目標を高く設定していることもあって、1次評価はBになっているが、電気使用量を含め経費削減に対する努力は点は評価できる。評価をAとする。[小林]
- ・この項目を評価することは非常に難しい問題だと思います。報告書にもあるとおり、予算が厳しい状況下で、努力に対する評価をつけるとすればAだと思いますが、これからも創意工夫で頑張ってください。[佐倉]
- ・美術館側の職員が自身で評価する項目であると考えました。[杉戸]
- ・美術館周辺マップなどとても良く出来ていてがんばっていると思う。[水島]
- ・開館時間などはもう少し効率的にして良いと思うのだが…。[水島]

平成 22 年度 横須賀美術館評価委員会 評価報告書

平成 23 年 12 月

横須賀美術館評価委員会

横須賀市教育委員会美術館運営課

〒239-0813

神奈川県横須賀市鴨居 4-1

TEL 045-846-1211